



# 山名一族会報

全国山名氏一族会  
〒667-1311兵庫県美方郡香  
美町村岡区村岡2365法華寺内  
電話 0796-198-1151  
FAX 0796-198-1161

## 専念寺（山名義範前理自坊）で継職法要

### 専念寺継職式挙行

4月19日に山名義範前理事長の御自坊・専念寺（赤穂市）で任職の継職法要が催され、山名年浩会長、山名嗣宣常任理事と共に出席しました。式当日は朝から生憎の雨模様。行事が無事計画通り行えるか心配しましたが、開式時間の1時間ほど前から雨が上がり、正午からの稚児行列も予定通り行えました。



雨が上がり稚児行列も予定通りに

導かれ新任職が入堂し、堂内を何周かした後に、前任職の隣に着座する。その後の「継職の儀」では、前任職が身に付けていた袈裟をその場で外し、使っていた扇を添えて新任職に手渡し、新任職が身に着けるといふ、世代交代が一目で分かる象徴的な式典進行でした。



前任職が経をお唱える中、新任職を迎える。

継職法要後は専念寺さんではお馴染みの関西の落語家、桂文福一座の「ふれあい寄席」という清興でした。落語・マジック・腹話術・相撲甚句。大吉利と様々な芸で楽しませてくれ、あっとい間の2時間でした。



式典後の記念写真



山名年浩会長が来賓ご挨拶。

確かに風呂敷ならば大きさも充分ですし、実際に風呂敷として使用しても、壁掛のようにも飾れますし、「上手い事考えられたな」と感心。以前作成した『清和源氏諸流略系図』等も同様の手法を用いれば、もっと扱いやすいのでは無いかと想ったりしました。記念品に関して良いヒントを与えて頂き感謝します。

山名義範前理事長には山名会再興の委員会発足の時（且23/9）から関わって頂き、ヨチヨチ歩きの名名会運営を良く取りまとめ頂きました。



式後の懇親会、文福師匠を囲んで。

# 三王相談役 貴重なアンティーク ヴァイオリン御寄贈

本年の一月に三王紀將相談役より、氏が永年愛用されたヴァイオリンの御寄贈を頂きました。楽器内のラベルには製造年「1723」と記してあり、約200歳のヴァイオリンですので、手にするのが少し恐ろしいくらいです。

## 三王家の御由緒

頂きに参上した折にお聞きしたのですが、三王家の家祖は山名広重と言ひ山名持豊の従兄弟に当たるとし、持豊の時代に安芸国の守護代として当地に派遣され、その後能美島に本拠を構えて代々現在に至って



大切に保管され氏の愛器への愛着が感じられます。

るとの御由緒です。

また、子宝に恵まれなかった山名広重は厳島の参翁神社（もとは山王社）に願をかけ、その御利益により跡取りを授かり、その故で「参翁」を「三王」に文字を変えて自らの姓としたと言うことのようにです。

時代は下って、三王紀將家の祖父君は剣道・柔術の師範として大阪で道場を開き、父君はそれに加えて阪神間で刀剣商を手広く商い、豊臣秀吉由来の刀等今で言えば国宝・重文級の刀を中心に扱って居られたようです。

今回御寄贈頂いたヴァイオリンもそんな刀剣取引の対価として受け取られた物では無いかと勝手に想像しています。



メンテナンスに出せば、まだまだ現役で使えるとの事です。見えにくいですが、内部のラベルには「1723」の文字と工房名が

三王氏が永年愛用されて来たのですが、十年ほど前に追突事故に巻き込まれその影響で、肩の具合が思わしくなく、今回の寄贈に到りました。

事務局が弦楽が出来れば、その音色の素晴らしさを皆様に表現出来たでしょうが、残念ながらこの方面には全く無調法でそれは叶いません。

いつの日か何かの記念行事の際に、音色を楽しむことが出来ればと思います。

今しばらくは山名蔵にて保管・展示し、時期を見てニス塗り等のメンテナンスに出して、末永くお預かり出来るように備えたいと思います。

三王様には思い出深い大切な銘器を御寄贈頂き、誠にありがとうございます。



# 新任役員よりご挨拶

第21回総会にて、山名義範理事長がご勇退なさり、新任理事長に前常任理事の山名靖英氏（京都市）、二名の内一席を空席となつた常任理事に山名嗣宣氏（赤穂市）が就任頂きました。二年間の会運営、よろしくご協力下さい。お二方から一言頂きました。

## 新任理事長・山名靖英氏

陽春の頃、会員諸氏におかれましては、益々御健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。本年度も何卒よろしくご願ひ申し上げます。

さて、私は、先般の第21回山名会総会におきまして、理事長という大任を仰せつかりました。もとより何の功績も能力もない私が、このような重責を全うすることができるか、不安で一杯であります。

しかし、ご推挙いただいた以上、山名年浩会長のもと、会の発展と会員諸氏の親睦を図るため、微力を尽くして参る所存でございますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

改めて、今日まで理事長



山名靖英氏（丹波山名）

として、会の運営にご尽力いただいた、山名義範前理事長に心から御礼申し上げますとともに、今後ご健勝にて、会を見守り、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様には、本年の総会でお会いできますことを念じ、ご挨拶とさせていただきます。

平成27年4月吉日

山名靖英

### 新常任理事・山名嗣宣氏

この度、常任理事を請け賜りました山名嗣宣です。

平成24年10月の再興から3年の節目にあたるこの機に、常任理事として一族会の運営に関わらせていただくことになりました。

少子高齢化社会が到来し、一族会を取り巻く環境もきびしくなると予測されます。

「山名一族会の理念」と「山名の誇り」を次の世代に引き継ぐべく、精一杯努めさせていただきます。

なにぶん不器用ゆえ、至らない点が多々生ずるかとはいえませんが御協力の程よろしくお願いたします。



山名嗣宣氏 (美作山名)

平成27年4月吉日

山名嗣宣

## 役員会を開催

5月下旬に役員会を開催し、本年の総会の計画等を協議致します。

以前からご指摘を受けていた如く、

(何れの会にも関わらずですが…) 会立ち上げの1〜2年は勢いも有り割と賑やかに活動が出来ますが、それ以降は物珍しさも半減し徐々に沈滞傾向に陥る可能性大と…。

当山名会の場合も再興から4年目を迎え、会員の高齢化もあり、その傾向とは全く関係無いとは言えませ

ん。何とか本年辺りに若い年代を取りこんだ催しを行い、会の活動に勢いを取り戻さねばならないと考えて居ります。

つきましては、次回総会について会員各位様で何か良い趣向(又は、ご希望・ご提案)等、御座いましたら事務局へご一報願えましたら有り

## 山名会総会へ是非ご参加を!

当一族会の宮田靖国氏著『山名家譜』からは山名宗家に連なる流れがよくわかります。また、『清和源氏諸流略系図』拙著では山名氏の位置がわかる。山名氏の流れは大きくは、山名氏清公の流、宗家山名氏の(鎌倉・但馬・村岡へ)流、太田垣氏ら山名四天王の流、鳥取山名氏の流、紀州山名氏の流、備後山名氏の流、伊勢山名氏の流、等、今日一族は東北地方から山陰山陽に広がり全国規模となっています(特に西日本に多いが)。もちろん、長い歴史のことで、現代の電話帳では約1千名がおられる(但馬の法雲寺の吉川廣昭第19世御任職が一族会の結成に当たって昭和51年頃に調査された)。

また、現時点での日本の苗字ランキングでは山名姓は1763位と希少です

(山名一男氏調べ)。また『ものがたり山名氏八百年』は物語風に書かれてわかりやすくなっています。また、法雲寺には山名蔵として、

山名氏にかかわる歴史的な史料や物品を所蔵し公開しております。これらについては、山名氏一族会と法雲寺のホームページ <http://www.yamanalzoku.org/> で紹介している。山名氏一族に關係する寺社は30を数える。

「全国山名氏一族会」(総裁は山名義晴氏、副総裁は山名義英氏、本部事務局局長は法雲寺の吉川廣隆和尚)は全国に生き続ける山名氏の子孫で構成されており、毎年集まり、賑っております。昭和61年6月の結成から平成15年5月までと、一時期活動を休止しましたが、平成24年に再開し今日に至っています。見学先は山名氏ゆかりの神社・仏閣が多く、また關係する講演を聞きます。参加者も一族の他に歴史研究者やご関心の方々のご参加も得ています。また、機関誌『山名』は第6号を昨秋発行しております。

特に本年の秋の総会はいろいろな点で参加しやすさも考え、見学先等も意味あるものにしたと役員会で企画しております。是非にご参加頂けるよう、おすすめ致します。



山名年浩会長 (備後山名氏)

法雲寺には山名蔵として、

がたいです。役員会にて計画の参考にさせていただきます。たく存じます。

ご提案頂ける方は

メール houmji@gaia.eonet.ne.jp  
FAX 0796-98-1161

等(2)の1報を！

### 旧刊行物のデータ化

山名会では現事務局に移るまでに  
・歴史研究会報「山名」①～④号  
・山名赤松研究ノート①～⑨号  
等の小冊子を発行してきましたが、  
一部の冊子を除き、そのほとんどが  
在庫がない状態です。

しかしながら各冊子には山名氏研究にとって貴重な文献も多く、このまま埋もれさせておくには惜しい限りです。

果たしてこれだけ多くに方々に喜んでもらえるかは別にして、旧事務局



今後は「山名赤松研究ノート」のデータ準備

局にて記録用に保管している小冊子類を随時電子化してホームページ上で公開する準備を進めています。

パソコン等をお持ちでしたら、何方でもご覧いただけます。

ご覧いただくには、山名会ホームページ (<http://yamanaizoku.org>) から、『山名会の刊行物』にお進みください。データはPDFの形式ですので閲覧するだけでなく、印刷も可能です。

### 豊国公四百年遠忌(H37)

十年後の話ですが、H37年(2025)に村岡山名初代・山名豊国公(因幡山名最後の守護大名)の没後四百年を迎えます。事務局のある法雲寺では50年毎の遠忌に併せて事業を行っておりました。(他の寺院のご開帳と同じような感じ)

鬼が笑うどころに話ではありませんが、十年後の事業に向け徐々に構想だけでも練って置いた方が良さそうです。

因みに三百年遠忌(T13・1924)の記録を見ると、寺院内外の堂舎等の整備と遠忌法要に加え、時代を反映して奉納相撲・村芝居興業・仮装行列・餅まき等、余り遠忌とは関係の無い行事も行っていったようで、娯

楽の少ない時代でしたから二千人を上回る参拝者があったと記録されています。

また、三百年遠忌の際には、小坂先生著の「山名豊国」を刊行、旧山名蔵建設等の事業に加え、元兵庫県知事や鳥取県知事に代表を務めて頂き、今の山名会にいたる「山名氏奉賛会」を組織しているようです。さて、四百年遠忌にはどのような協賛事業を考えましょうか？いずれにしても、時代に即した内容と、多くの人々の関わり無しには実施不可能な事柄です。

事業に関する良いアイデアが御座いましたら、御教授下さい。



山名豊国(禪高)公

### 年会費納入のお願い

『全国山名氏一族会』と雄々しい名称を冠しておりますが、会計面ではまだまだささやかな物で、有志からのご寄付と会員諸氏からの会費で何とかやりくりが出来ている状況です。本年度会費の納入を何卒お願い申し上げます。

未納の会員様には郵便振替用紙を同封しておりますので、ご利用の上ご納入下さい。ご理解ご協力よろしくお願い致します。

山名義範前理事長様には専念寺(ご自坊)の任職継職おめでとう御座います。お聞きしたところに依りますと、ご自身は父君急逝で21歳で任職となられ昨今まで、計算しますと約60年間勤め上げられた事になります。

一家の主人として務める年月は大体「二代三十年」位いかと思えますが、前理事長様はその二倍の期間、お勤めになった事になります。

その年月に裏打ちされた門徒様方と『阿吽の呼吸』の継職法要でした。また、新任職も現役の社会の先生と言う事で、今後の山名会へのご参加期待するところ大です。どうかお二人共々、山名会をよろしくお願い致します。

本年の山名会総会、記事にも書きましたが、多くの皆様ご参加頂けるような総会が開催できればと願って居ます。

年ごとに会員各位の年齢が上がっていきのは防げない事、ならば若い年代の方に加わって頂き、会に活力と勢いを取り戻して行きたい物です。

会員各家の後代のみならず、若い方々を誘い込む事が出来る智慧をお授け頂けますようお願いいたします。

(事務局)